

# 社会保険 二本松病院

二本松市成田町1-553  
TEL 0243-23-1231  
FAX 0243-23-5086  
<http://www.shaho-nihonmatsu.com>  
発行責任者：院内外報編集部



## 病院・施設間における感染管理

ICT委員 斎藤宏子

今回、初の試みで特別養護老人ホームみどりの郷、特別養護老人ホームしらさわ有寿園、サンビューニ二本松と当院で合同の講演会を行うことができました。

施設、病院間での感染性の疾患は多数あります。が、今回はインフルエンザ、結核、疥癬にしづきり各施設の方々と事前に話し合いをしました。初めてどのように話を進めて行つたらよいか迷いましたが、話を聞いていくなかで感染に関するマニュアルがあり、各施設でそれぞれ対策を行つていることがわかると話が進みました。各施設の方々も高齢者は抵抗力が低下しやすいためどのように感染対策をしていったらよいか悩みがあつたようでした。また、昨年の東日本大震災での体験談も話が聞け、震災時の対応も今度に役立てられればと思いました。

今回の講演会は皆さんのご



今回の講演会でのポイントとして、施設から病院受診、入院にいたるまでの経過の中でお互いの情報交換が役立てられたらと思いまとめてみました。「施設は施設」「病院は病院」ではなくお互いの情報が感染に関わる大事なポイントがあると思います。

高齢者施設は「生活の場」であり病院とは異りますが、感染に関する基本的な事は同じでありスタンダード・プレコーション・経路別の感染対策を行い基本的な措置が重要になります。講演会の最後に質問がありました。感染に関する情報が必要であり感染に関する情報を施設の方々も求めてくれており開催してよかつたと感じました。今後、

協力があつて初めて実現したものだと感じました。感染対策の実施にあたっては職員一人一人の行動が重要であり、施設の方々が多数参加していただいいたことで今回の感染対策に少しでも役に立てることができたと感ります。この場をお借りしてご協力いただいた皆様に感謝いたします。

# 定年を迎えて



健康管理センター  
管理部長兼  
施設課長

**大滝 晴央**

この3月で定年を迎えることになりまし、病院在職中は、院長先生を始め職員皆様には大変御世話になりました。

私が就職した当時は、昭和44年頃に起きた大学紛争の影響や、開業等で退職された医師の補充が進まず、内科医1人、外科医1人という中、再建指定病院からの脱出を図っている時期でした。岡本院長のもと、職員一人ひとりが危機意識をもち、再建目標に向け奮闘していました。

再建へ向けた病院経営の一つとして昭和53年に腎センターが開設され、テクニシャンとして就職しました。透析室は、当初5名程の患者数でしたが徐々に透析室も拡充され地域の透析患者の治療になくてはならない施設として成長してきました。

昭和55年には、腎移植が行われ母親

から子への生体腎移植を実施、無事成功しそのスタッフとして携われた事は大変貴重な経験になりました。

この頃は、病院職員も多く採用されるようになります。充実した体制が確保できるようになってきました。古い病院時代にあつた中庭駐車場を整備しての

職場対抗のバレーボール大会や職員家族の親睦を深めた大運動会、忘年会、病院旅行、駅前での盆踊りなど楽しい思い出がたくさんあります。当時は、行事への参加は、ほぼ強制参加で職員の親睦により絆（コミュニケーション）が確保されていました。

昭和61年、透析室より事務部門に異動し、施設、用度業務に携わってきました。

平成5年には新しい病院ができ、その後、老健施設、訪問看護ステーションなどの開設により医療、看護、介護の道筋ができ経営も順調に推移してきました。

院長のリーダーシップと時代を見据えた基本方針のもとに職員が一つとな

いけることを心より願っています。病院は、今後「独立行政法人地域医療機能推進機構」による運営形態に移りますが、病院理念の実践に向け、地域医療に貢献する病院として邁進していくことを心より願っています。



放射線技師長  
**斎藤 敏和**

これまで何度も、退職されていく病院職員の送別会等に参加してきましたが、今回はやっと自分自身が、定年退職することになりました。

顧みますと、昭和54年1月に入院し、今日まで33年間の永きに渡り、病院に勤めさせて頂きました。この間、諸先輩の方々、職員皆様のご指導のもと、無事に勤める事が出来ました事に深く感謝申し上げます。

過去を振り返りますと、15歳から12年近く自衛隊に籍を置きましたので、当院に入職したときは27歳になっていましたが、それからというものは、結婚、子育て、そして今では子供達も無事、職につき、気持ちに余裕ができるようになりました。

また、このように定年をむかえる時期に、この先の事を思うと、いろいろな写真を見る事ができますが、今まで不思議と楽しいことばかりが思えます。

また、このように定年をむかえる時期に、この先の事を思うと、いろんな事を考えさせられます。いまこうして勤務なされている在職者は、この先何年後かには定年年齢は65歳へ……。今の年金額はすでに下げる方向へ。福島県内のほぼ全域が放射能で汚染されました今、これから余暇をどのように過ごすかと。

いろいろマイナス面がありますが、よくよ考へても仕方ないのでプラス思考で生きていくしかないなと思っています。

最後になりますが、今後の二本松病院の益々の発展と皆様のご健勝を祈願申し上げお礼の言葉と致します。ありがとうございました。



外来科長  
渡辺 弘子

昭和51年4月に就職して、早や35年が過ぎ定年を迎えることとなりました。古い病院での院内引越し、そして平成5年5月に古い病院から現在の新病院への引越しと、何人の人が覚えているでしょうか。



外来  
渡邊恵美子

昭和44年に准看護師になつていわき市立共立病院に入職し、その後49年に結婚で、当病院に再入職しました。

古い病院で、医師は、内科1名、外科2名、産婦人科1名、そのほかは、福島医大からの日替わりの医師達でした。



外来  
渡邊 恵子

昭和52年から35年間勤めさせていただき、院長先生はじめ、職員の皆様には大変お世話になりましたがどうございました。

振り返ると、24才で当院に就職、結婚、子育て、仕事と夢中で毎日を過ごしていました。

旅行など職員全体の仲が良く、それが患者さんの対応にも出ていて、総合病院として患者さんの日々にも上っています。

勤務異動でいろいろな部所を経験しました。運動会や、バレー・ボーリ大会、花見、勤務異動でいろいろな部所を経験しました。

3月までの日々を数える日数となりました。

昭和51年4月に准看護師になつていわき市立共立病院に入職し、その後49年に結婚で、当病院に再入職しました。古い病院で、医師は、内科1名、外科2名、産婦人科1名、そのほかは、福島医大からの日替わりの医師達でした。帰りにベニマルに寄つて買物をと思い、そして魚売り場の先で声をかけられました。「あの、キヤツプを着けたままですよ。」と、もう、それからしばらくの間ベニマルには買い物には行けませんでした。

3月までの日々を数える日数となりました。

支えによつて最後を迎えられそうです。でも、どうにか皆様の支えや家族の支えによって最後を迎えられそうです。今は自分の健康に留意し、母の介護をしながら人生を少し楽しめればいいなと思います。長い間お世話になりました。

でも、どうにか皆様の支えや家族の支えによって最後を迎えられそうです。でも、どうにか皆様の支えや家族の支えによって最後を迎えられそうです。今は自分の健康に留意し、母の介護をしながら人生を少し楽しめればいいなと思います。長い間お世話になりました。

でも、どうにか皆様の支えや家族の支えによって最後を迎えられそうです。今は自分の健康に留意し、母の介護をしながら人生を少し楽しめればいいなと思います。長い間お世話になりました。

でも、どうにか皆様の支えや家族の支えによって最後を迎えられそうです。今は自分の健康に留意し、母の介護をしながら人生を少し楽しめればいいなと思います。長い間お世話になりました。

でも、どうにか皆様の支えや家族の支えによって最後を迎えられそうです。今は自分の健康に留意し、母の介護をしながら人生を少し楽しめればいいなと思います。長い間お世話になりました。



5階病棟  
安田美紀子

誰もがそうであるように、あつとう間に60歳になり、まもなく定年を迎えることになりました。

私は、平成元年に採用され平成と共に歩んできました。3年間は旧病院の1階病棟、4年目は3階病棟、5年からは、新病院の4階病棟、平成9年にサンビューニ本松の開設と共に転勤となり、平成9年に腎センターに戻ってきました。そして現在の5階病棟に移つて6年目になります。この23年間多くの先生方、先輩、後輩、同僚に支えられ、全うすることができました。深く感謝しています。

今後は、第二の人生をどう生きるかです。たぶん少し働きながら3人の子供たちと夫を支え、好きな山登りと薔薇作りをしながら、年を重ねていけたらいいなと思っています。

37歳で就職した時は、中途採用でしかも中年、みんなについていくのが精いっぱいでした。いろいろ気を使うことがあり苦労しました。

### ◎楽しかったこと

サンビューニ開設に関わったことです。看護師だけでなく多職種の方々、患者でない入所者、家族の方々、ボランティアの人達などの交流を通して、

## 院内避難訓練実施！

3月23日(金)、平成23年度避難訓練が行われました。夜間3階病棟で火災が発生したことを想定し、医師・看護師・患者様役の職員らが参加しました。火災報知機作動後、各職員が避難経路を確認しながら迅速な避難誘導を心掛けながら行いましたが、非常扉の解錠方法や夜間火災が起った際の連絡体制など緊急時の対応について再確認することができました。

訓練後は消防署員の方から講評を受け、参加者全員が消火器を使った消火作業の方法を学びました。

日頃から患者様の安全安心を第一に考え、「万が一」を想定した対応がいつでもスムーズにできるように、防災の意識を高めていきたいと思います。



### 今年の行動規範

**笑顔 真心 思いやり**

今月の目標  
ハットした。



ヒヤットしたその瞬間  
教訓生かして 安心医療

安藤 千春

外	来	看護師	渡邊 恵子
施設課長	放射線部	技師長	斎藤 敏和
外	来	科長	渡辺 弘子
5階病棟	5階病棟	看護師	安田美紀子
外	来	看護師	佐藤のり子

**人事異動**  
退職 (3/31付)

医局 伊藤 泰輔

### 編集後記

桃の節句が過ぎても雪が舞う日が続きますが、一日一日と寒さが緩みこれからは「さくら前線」のたよりを楽しむ季節となりました。木々や土手に目を向けて見てください、ほんの小さな花の芽がかおを出していますよ。季節の空気を感じ前を向いていきましょう！

長年務められた先輩方がどうございました。今までお世話をになりました。一度桜の木の下で宴を開き思ひ出話で盛り上がりましょう。

(Y.M記)